

# かながわ市民オンブズマン旗揚げ！！

行政の不正や税金の無駄使いを市民の立場から監視しようと「かながわ市民オンブズマン」（代表幹事・大川隆司弁護士ら四人）が1日、旗揚げした。横浜市内で開かれた結成総会では、活動方針の中心に「情報公開時に資料の閲覧料が必要で、特に問題の多い横浜市の制度の改善をもとめて行くこと」などを掲げた。同市は「全国市民オンブズマン連絡会議」が2月に発表した情報公開ランキングでも政令指定都市の内最下位と評価された。相次ぐ批判に横浜市は「非常に不本意」と反発しているが・・・。

## ■■■政令指定都市の情報公開ランキング■■■

### ■■■「最下位横浜」に風穴をあけるか！■■■

横浜市開港記念会館で開かれた結成総会では200人以上の市民が参加。座席が足りなくて立ったままの人が出るほどだった。

活動の大きな柱として「県内各自治体の条例の内容と運用実態を検討し、改善、是正を求める」とうたったほか、

(1) まだ非公開とされていることが多い議会委員会や、審議会の内容開示、公開審議の要求。

(2) 今春の食料費の透明度調査をふまえたうえでの県や横浜市の課題の追及などの方針が決められた。

しかし、情報公開制度が市民にとって本当に役立つものになるためには、条例の理念や公開対象の範囲だけが問題なのではない。

### 【多い非公開部分】

「とにかく横浜市の現状が一番ひどい」。先月25日の夜、同市内で開かれた最後の準備会でも、横浜市条例への批判が集中していた。が、その論点は公開内容とともに、情報公開で閲覧料などを取ることが許されるのか、という入口論で盛り上がった。

司会をしていた篠原義仁弁護士が活動方針について意見を求めると、「シミ塗り（非公開部分）が多いうえに、閲覧料が高い」「ほかの自治体では閲覧料など取っていない」などの声が出席者から相次いだ。

横浜市民局によると、情報公開請求の閲覧料は一件300円。コピーには一枚30円かかる。

茅ヶ崎市で情報公開運動を続けてきた本間弘彦さん（65才）は「食料費を数年前から請求すると、請求の範囲にもよるが、最低でも数十万円がかかる。ふつうの市民が負担出来る金額ではない。高い閲覧料は事実上、情報公開を阻んでいる」と指摘する。

## ■■■高い閲覧料に批判ーオンブズマン■■■

### ■■■ 評価の基準に反論ー横浜市 ■■■

#### 【受益者負担？】

県も川崎市も閲覧は無料だ。情報公開ランキングでの横浜市への低い評価はこの高い閲覧料も要因だ。

横浜市の情報公開の窓口になる市民局市民情報室は、実際に利用されている人は高いと思うかもしれないが、議会で議論をした結果決まったもの、市民全体の意識は、どうでしょうか」と反論する。

同室の大久保正美課長は人件費を含めてコスト計算すると、モデルケースで一件の請求当たり一万五千円かかるという計算もある。閲覧料は、その一部を負担して頂くということで、同じことを民間ですると赤字です」と話す。

同室によると、閲覧料の根拠は地方自治法の「地方公共団体の事務で特定の者のためにするものにつき、手数料を徴収することができる」（二二七条）に基づいている。つまり、住民票の手数料などと同じで「受益者負担」が原則になっているというのだ。

### 【大量請求困る】

「それと、現場サイドから言えば、マニアへの対応の苦慮もある」と大久保課長は付け加えた。「3ヵ月で三万七千件以上の大量請求をしてくる人がいる。請求後に資料を見るかといえば、ほとんど見ていない」。

大久保課長によると、無料になれば、より多くのマニアが大量請求を繰り返す可能性があるという。その結果、市職員は残業して対応しなければならず、通常業務に支障をきたす。結局、市民の不利益となって跳ね返ってくる、と説明する。

「マニア」の定義も問題だが、例えば閲覧料が無料の県にマニアは来るのか。

県政情報室によると「確かに一度に二千件以上の閲覧請求をした上で、殆ど、見ないで帰ってしまう人もいる」という。だが、「行政の透明度を高めるという条例の趣旨を考えると、有料化に動くことは考えにくい」とも言う。

かながわ市民オンブズマン事務局長に就任した森田明弁護士は「少数のマニアのために、無料化が難しいと言う論理はおかしい。納税者の権利と言う立場からしても、市民サービスとしても無料は当然のことだ」と批判する。

### 【立ち上がる市民】

横浜市の岡本坦助役は「オンブズマンの結成は評価するし、批判は謙虚にうけとめる。だが、最下位は納得できない」と話す。「県と違い食料費が項目として明記されるなど、市の公開度は高い」と、評価の基準、比較の方法を問題にする。

本間さんは「わずらわしいかも知れないが、市民も行政も、皆が、ある程度の犠牲を払っていく覚悟がないと、閉ざされた行政に風穴をあけることは出来ない。オンブズマン結成が市民が立ち上がる契機になればいいが」と期待している。

（朝日新聞3月2日号より・折井久彦氏提供）